

# 村民活動や村民意識等について

---

# 1. 平城遷都後における飛鳥地方の移り変わり

飛鳥地方は平城遷都後も寺院や離宮などが残され、人々の行き来があった。集落は中世に成立し、近世にかけて成熟し、門前の賑いや農業中心の生活、鎮守の祭祀などが行われた。近代には米を中心に各種の特産品の生産が行われるが、豊凶や輸入、世界経済の影響も受けた。

## ■中世（平安～安土桃山時代）

- 平城京への遷都がなされ、官人や僧侶の多くは奈良に移り住み、豪壮な邸宅に変わって田や畑が広がっていったとされているが、宮殿の跡地や苑池・離宮は維持されていた。
- 田畑の一部は荘園となり、さらに戦国期には山城、平城が立地したとされている。この頃、集落はほぼ現在の位置に成立したと考えられる。

## ■近世（江戸時代）

- 飛鳥の村々は集落として成熟を見せ、こうした集落のうち岡集落が岡寺の門前町として賑わいを見せるが、多くの集落は農業を中心とした生業・暮らしが維持されていたと考えられており、農業生産を営む中で、信仰と結びついた各種の行事が行われた。

## ■近代（明治～昭和時代）

- 明治初期の農業は、江戸時代の自給自足の色合いがかなり残っており、米は自家消費、藍・菜種・種油が売物であった。
- 大正期になると、養蚕が副業として成り立つようになるが、世界恐慌後は衰退していく。
- 特産は、蜜柑やショウガ、仙人百合、秋きゅうり、ごぼう、薬草のほか、養鶏も盛んに行われた。

時代	西暦	年号	事項
平安	794	延暦13	都を平安京に遷す
	947	天曆1	多武峯、延暦寺の末寺となる。
鎌倉	1196	建久7	本元興寺(飛鳥寺)落雷で焼失。【上宮太子拾遺記】
室町	1532	享禄5	多武峯現在の十三重塔建造。
	1546	天文15	筒井順昭、貝吹山城を開城
安土桃山	1576	天正4	織田信長、筒井順慶に大和をゆだねる
江戸	1772	明和9	本居宣長、吉野から飛鳥を踏査し「菅笠日記」を著す。
	1791	寛政3	「大和名所図絵」秋里籠島
	1798	寛政10	「古事記伝」本居宣長
	1848	嘉永1	「西国三十三所名所図絵」暁鐘成
	1864	元治1	現橋寺の再興
明治	1868	明治1	大和鎮撫総督府、奈良府を経て、奈良県を設置
	1889	明治22	町村制の実施。県内154町村の設置(阪合村・高市村・飛鳥村)
大正	1914	大正3	牽牛子塚古墳から七宝亀甲形座金具など出土
	1916	大正5	飛鳥川の東岸から出水酒船石出土
昭和	1933	昭和8	石舞台古墳の調査
	1938	昭和13	橿原考古学研究所開設
	1952	昭和27	奈良文化財研究所開設
	1956	昭和31	旧高市郡阪合村、高市村、飛鳥村が合併。「明日香村」誕生
	1966	昭和41	古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法交付。明日香村が「古都」に指定
	1970	昭和45	飛鳥古京を守る会設立、飛鳥古京を守る議員連盟設立
	1972	昭和47	高松塚古墳調査。極彩色壁画の発見
	1974	昭和49	国営飛鳥歴史公園(祝戸地区)開設
	1975	昭和50	国立飛鳥資料館(現飛鳥資料館)開設
1980	昭和55	明日香村特別措置法施行	

## 2. 集落(大字)の特徴

明日香村には39の集落があり、立地する場所の特徴に合わせて固有の集落景観を形成している。広がりのある田園や棚田、山腹斜面、河川の谷筋、門前の街路沿い、鉄道駅周辺や幹線道沿いなど、多様な環境の中に個性豊かな集落を見ることができる。

### ■特徴的な39の集落

- 39の集落(大字)には、谷筋、尾根線、河川、街路などにより、個性豊かな集落景観がある。
- 北部の飛鳥、雷集落では、広範囲に広がる農地の中に集落が点在。
- 中部の岡、島庄集落では、南北の街路を軸とした連続性のある景観が形成。
- 南部の飛鳥川と冬野川の合流地点付近の阪田や稲淵集落では広がりのある棚田と一体となった景観を形成しており、文化的景観を呈している。
- 冬野川沿いの細川集落では、谷筋に連続性をもって立地しており、尾根によって囲われたまとまりのある景観を呈している。
- 飛鳥川上流部の栢森集落などは、河川との関わりの深い景観が特徴。
- 冬野川、飛鳥川に囲まれた東部の山地では、周囲を森林に囲まれた畑などの小規模な集落が山腹斜面に点在。
- 西部には、鉄道駅や主要幹線道路周辺に都市的な集落景観が展開。



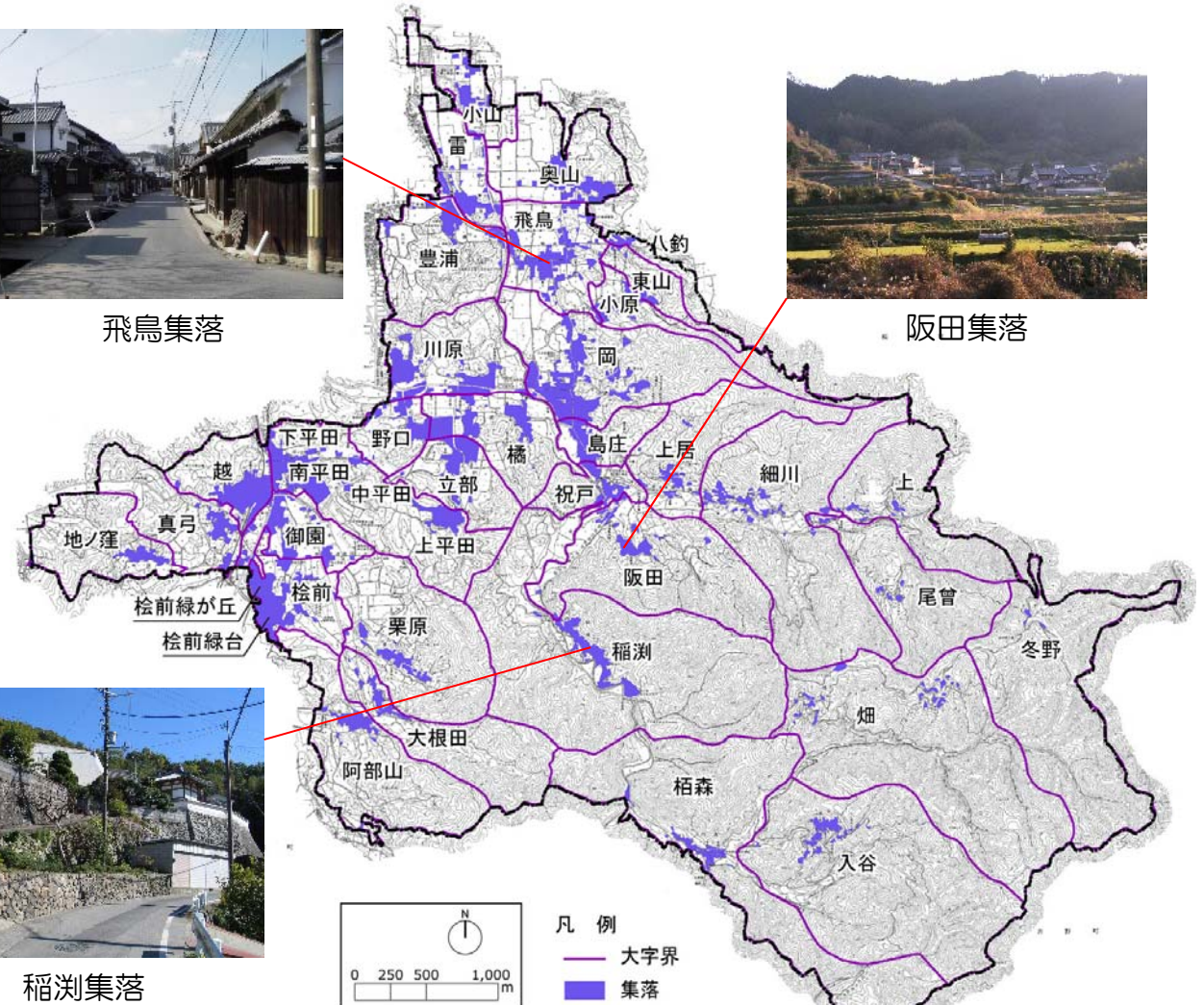
飛鳥集落



阪田集落



稲淵集落



集落の分布と大字界

出典：明日香村景観計画

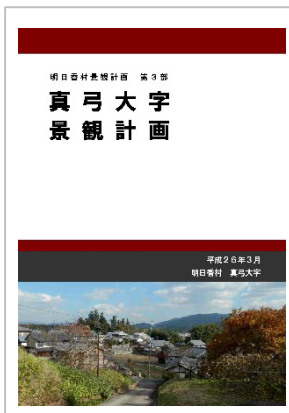


## 2. 集落(大字)の特徴

集落(大字)の特徴を捉え、歴史や文化の維持・継承、自然環境の保全・再生を進め、より良い生活環境を形成していくため、住民が主体的となって大字ごとの景観計画の策定を進めている。

### ■大字景観計画の策定

- 大字景観計画の策定 : 4件  
川原大字:H23.6、野口大字:H24.3  
奥山大字:H25.3、真弓大字:H26.3



集落ごとの景観計画



亀石付近のお地蔵さん(川原)



飛鳥川と蛭(川原)



長屋門(野口)



民家の石積み(野口)



雷からの眺め(奥山)



奥山久米寺跡(奥山)



伝統的な民家(真弓)



峠地蔵からの眺め(真弓)

大字景観計画で  
位置づけられている  
景観資産の一例

出典：大字景観計画  
(川原、野口、奥山、真弓)



### 3. 集落(大字)に根付いた村民活動 (奥飛鳥地域)

奥飛鳥地域では、明日香村を代表する伝統行事である「綱掛け神事」が村民主体で執り行われている。また、オーナー制度や景観ボランティア活動、特産品開発などの村民活動が活発に行われている。

#### ■伝統行事の継承、村民活動の展開

- 各大字では、季節ごとに祭りなどの行事が行われている。中でも、飛鳥川上流部で行われる綱掛け神事は自然の景観要素と人工的な景観要素が一体となって形成する歴史的景観であり、明日香村を代表する風物詩となっている。
- 稲渚の綱作りには、大字の総代と家の並び順で当たった5軒でおこなう。そして、綱の中央に吊る陽物は総代によって作られる。
- 栢森の綱作りは、村中の男子が総出して、栢森橋の近くでおこなっていたが、現在は宮行と呼ばれる大字の中の2人の当番と総代、副総代ならびに手伝い人5人の計9人で縄を綯う。
- 棚田オーナー制度等では、稲渚の住民である28名のインストラクターがオーナーの指導や彼岸花祭りなどの年間20回にも及ぶ各種交流行事を進めており、オーナーの活動が稲渚の棚田の維持に寄与している。
- 景観ボランティア明日香は明日香村全域を対象とし、平成14(2002)年から大人数のボランティア参加者が、地元住民とともに作業に従事するスタイルによって、手入れの不足した自然環境や建築物などの修復を行なっている。
- 稲渚・栢森・入谷の三大字が共同・協力し、地域活性化を進める「神奈備の郷活性化推進委員会」が平成14(2002)年に結成され、特産品等研究・開発部会、食材等供給部会、体験学習部会、施設整備検討部会の活動が行われている。



男綱（綱掛け神事、稲渚集落）



女綱（綱掛け神事、栢森集落）

出典：奥飛鳥地域文化的景観保存計画



#### 村民による活動

上：「奥明日香 さらら」さらら膳

左上：棚田オーナーの活動風景（稲渚）

左下：景観ボランティア明日香

出典：奥飛鳥地域文化的景観保存計画、歴史的風土創造的活用交付金事業の実施状況

### 3. 集落(大字)に根付いた村民活動 (真弓大字)

各集落(大字)には多くの村民活動があり、例えば真弓大字では、ほぼ毎月複数回にわたって清掃活動や祭などの行事が組まれている。また、集落営農も積極的で、大字の活性化や景観保全に取り組んでいる。

#### ■真弓大字の活動内容

- 真弓大字では、清掃活動や宮講の祭り、お寺やお地蔵さんで行なわれる行事など、年間数多くの行事が執り行われる。
- これらの行事は、真弓大字に暮らす人々相互のコミュニケーションの場となり、人と人の心をつなぎ合わせ、より良い生活環境を形成している。
- 近年は真弓集落営農組合による「はたけの八百屋さん」※の取り組みなど、住民自らが進んで、農業を軸とした真弓大字の活性化や農村風景を守るための取り組みを展開している。

※ 荒廃農地や古都法による県の買入地なども活用し、安心・安全な野菜を、購入者が現地で直接収穫し、購入・持ち帰るスタイルの八百屋。



はたけの八百屋さん



櫛玉命神社の祭・だんじり

出典：真弓大字景観計画

実施月	実施日時	祭り・行事	実施場所
1月	3日 9時～	初集会	真弓集落センター
	4日	新年法会	西蓮寺
	14日 18時～	トンド	宮さん付近の農地
3月	10日	どぶ掃除	集落内
	下旬	彼岸会	西蓮寺
4月	8日	花まつり、永代経法要	西蓮寺
5月	中旬頃	草刈り	墓及び松の畦畔
	中旬頃	大字管理組合花畑の作業	集落内農地
7月	14日 17時～	櫛玉命神社の夏祭り	櫛玉命神社
	24日	峠地蔵さんの地蔵盆	峠地蔵さん
	28日	どぶ掃除	集落内
8月	11日	草刈り	墓及び松の畦畔
	15日	盆会	西蓮寺
	23日	庚申講	庚申地蔵さん
	24日	延命地蔵さんの地蔵盆	延命地蔵さん
	31日	お日待ち	櫛玉命神社
9月	1日	道づくり	集落内
	下旬	彼岸会	西蓮寺
10月	6日	草刈り	墓及び松の畦畔
	第2日曜 16時～	櫛玉命神社の秋祭り・だんじり曳き	櫛玉命神社 他
12月	8日	どぶ掃除	集落内
	28日	門松立て	櫛玉命神社、庚申地蔵さん
	上旬	歳末助け合い運動	西蓮寺
毎月	上旬	空き缶及び空き瓶拾い	集落内外

真弓大字の年間の祭り・行事

出典：真弓大字景観計画

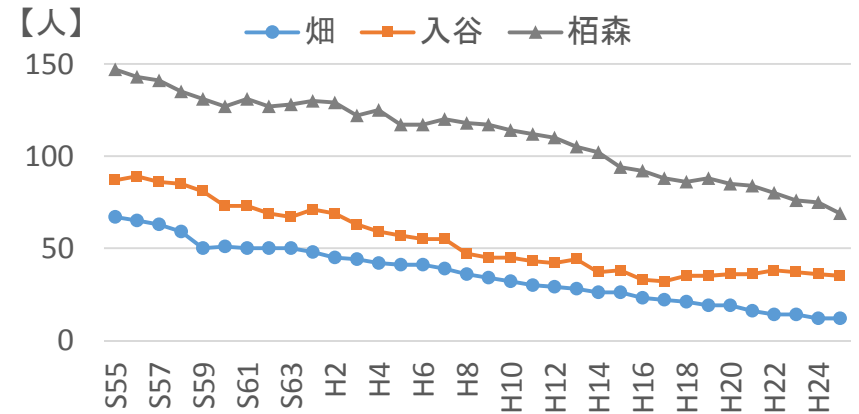


# 4. 集落(大字)が抱える問題 (担い手の減少)

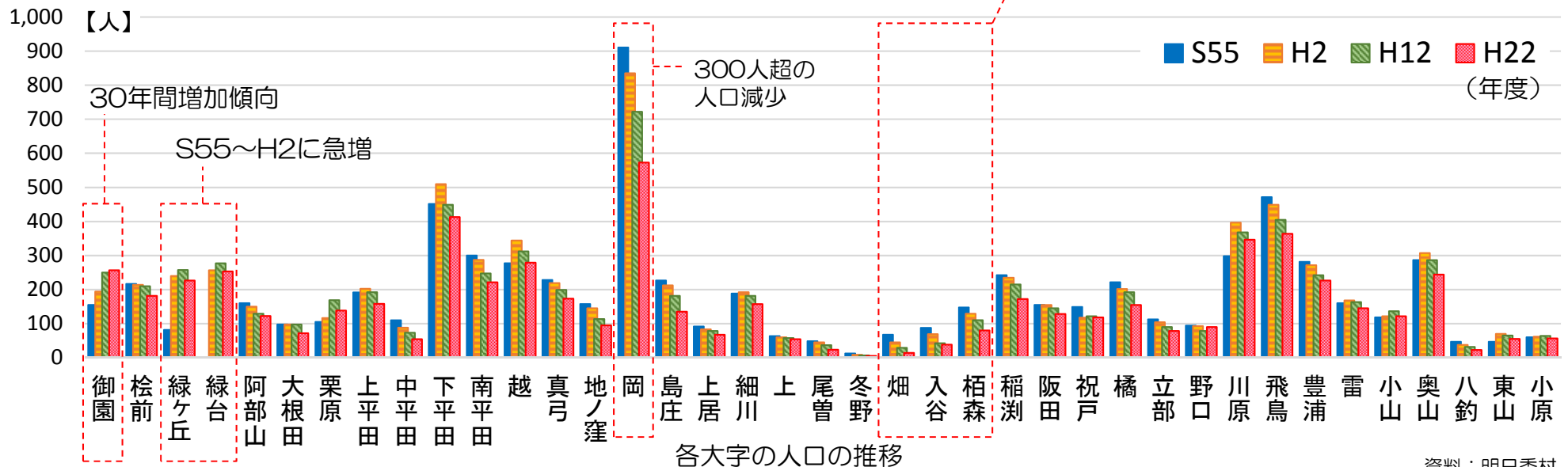
各集落の村民活動を支える担い手不足の問題が深刻さを増している。かつては人口が増えた大字もあったが、近年ではほとんどの大字で人口減少の傾向であり、特に山間部ではその傾向が顕著である。

## ■人口減少により、集落の担い手が不足

- 各集落の地域を維持・保全する活動を支える人口が減少しており、高齢化も相まって担い手不足が深刻な状況となっている。
- 多くの集落が昭和55年度から人口減少の傾向にある。
- 畑、入谷、栢森など交通利便性が低く、地域活動が多い山間部の集落は人口減少の傾向が強く、担い手確保への影響が大きい。
- 比較的利便性の高い、緑ヶ丘、緑台では、昭和55～平成2年度にかけて住宅地が形成されて人口が急増、御園は30年以上前から増加傾向。
- 規模の小さい集落では、集落そのものが近い将来消滅する可能性を有している。



人口減少率が高い大字の人口推移



各大字の人口の推移

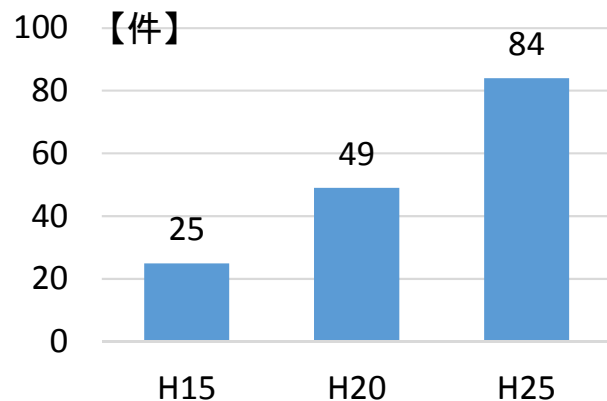
資料：明日香村

## 4. 集落(大字)が抱える問題 (空き家の増加)

空き家が10年間で3倍以上に増加し、管理が行き届かない老朽化した建物は修理に多額の費用がかかるだけでなく、景観的にも問題となっており、中でも倒壊の恐れがあるものは安全面でも問題となっている。今後とも空き家バンクによる利活用の充実化が求められる。

### ■空き家の増加、老朽化による損傷

- 空き家件数は近年増加傾向にあり、10年前と比べて3倍以上となっている。
- 空き家のまま管理されず放置され、損傷が激しい空き家が集落内に見られ、景観面や安全面で問題となっている。
- 住宅として使うためには大修理が必要なものから、修理が難しく、倒壊しかけている物件まである。
- 所有者と連絡が取れない物件もあり、対策が困難な状況となっている。
- 空き家バンクによる利活用を図っているが、供給量や住宅としての質の充実化が必要とされている。



空き家件数の推移 (村企画政策課調べ)



損傷が激しい空き家  
(越集落)



一部倒壊している空き家  
(細川集落)



敷地が荒れ、倒壊している空き家  
(大根田集落)



一部倒壊している空き家  
(檜前集落)



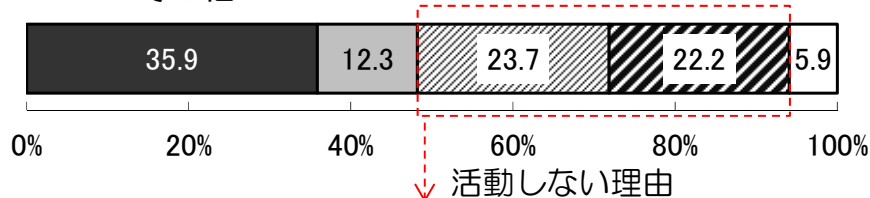
# 5. 村民の思い、意識（地域住民の功績、地域活動への参加） 国土交通省

景観・農業（産業）・文化が守られてきたことは、村民の功績であるが、農業者の離農などにより耕作放棄地の拡大につながってしまうことが懸念される。村民の村づくり活動への参加割合は低い、半数以上が今後の参加意向を表明していることから、活動の意義を評価し、活動を継続することが求められる。

## ■景観・農業（産業）・文化の保全

- 集落の特徴と村民活動の相互作用によって、景観・農業（産業）・文化が守られてきたことは、地域住民の功績である。
- しかし、農業者のうち45.9%が今後5～10年以内に活動しない可能性が高いとしている。
- 水田が1カ所耕作放棄地となることで、隣接する水田に悪影響を及ぼし、耕作放棄地が拡大してしまう恐れもある。

- 今後10年以上は続けていく
- 後継者がいるので、引き継いでいく予定
- ▨ 今後10年以内に活動しない可能性が高い
- ▩ 今後5年以内に活動しない可能性が高い
- その他

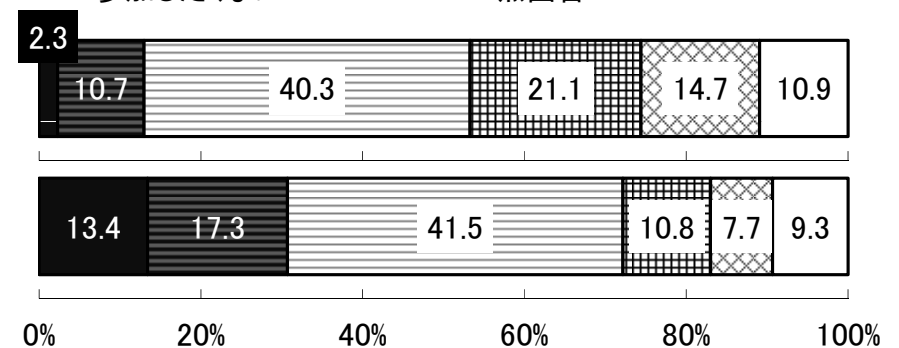


今後の農業活動について

## ■村づくり活動への参加意向

- 村民の村づくりへの活動割合は低く、自然環境の保全活動で2.3%、清掃や緑化活動で13.4%となっている。
- 今後の参加意欲について、「今後参加したい」と「頼まれれば参加してもよい」を合わせると、5割を超える。
- 山林や農地を適切に維持管理するためには、道や水路など、連続性があってはじめて有効に機能する施設が不可欠であり、また地域（組織）による活動がその基底となっている。
- 地域活動の意義を改めて評価し直すことや、困難になっている地域活動自体の継続への対応が課題。

- 既に参加している
- 頼まれれば参加してもよい
- ▨ 参加したくない
- 今後参加したい
- ▩ できれば参加したくない
- 無回答



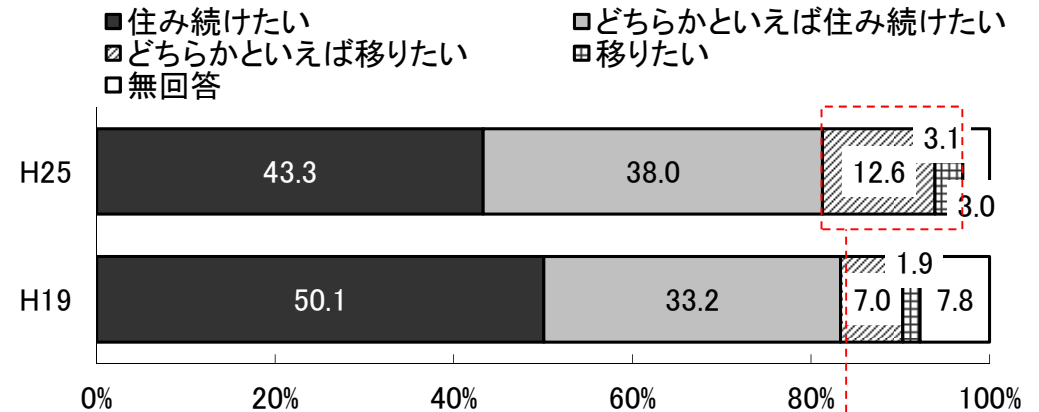
上：河川や森林などの自然環境の保全活動への参加状況  
下：身近な場所の清掃や緑化活動への参加状況

# 5. 村民の思い、意識（定住意向、離村意向の理由）

平成25年度の村民アンケートでは、村に住み続けたいと答えた人は43.3%にのぼり、どちらかと言えば住み続けたい人と合わせると80%以上にのぼるが、その割合は19年度より減少している。移りたいと答えた人は、60%以上が交通システムの不便さを理由に挙げ、その他近所づきあいの面倒さなども多い。

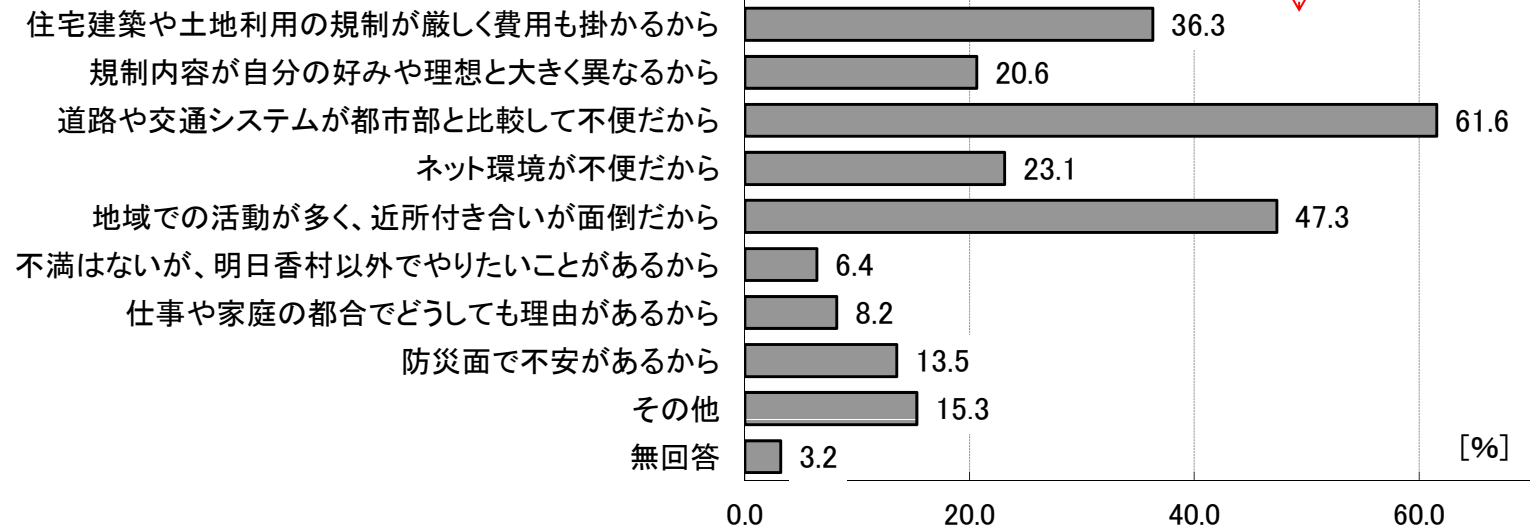
## ■村民の定住意向

- 平成25年度において、村民の今後の定住意向は、「住み続けたい」とした人の割合が43.3%と最も高かった。
- 「どちらかと言えば住み続けたい」とした人と合わせると81.3%に達する。
- 「住み続けたい」、「住みたい」とした人の割合は平成19年度より減少。



## ■村から移りたい理由

- 移りたい理由については、「道路や交通システムが他と比べて不便」が61.6%と最も高く、次いで「地域での活動が多く、近所づきあいが面倒」が47.3%と続く。
- 特に若い世代の離村理由として、交通利便性や地域活動への負担が挙げられる。



明日香村から移りたいと思う理由

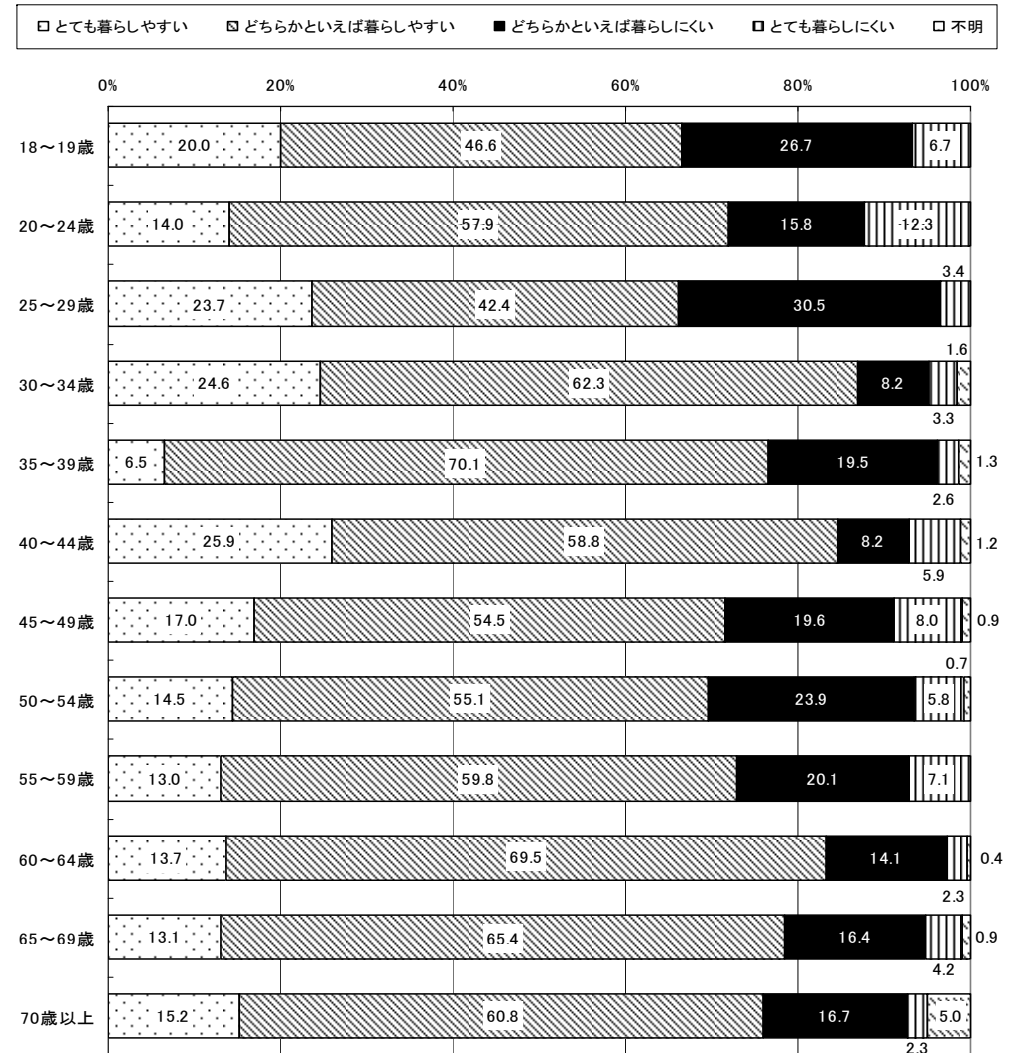
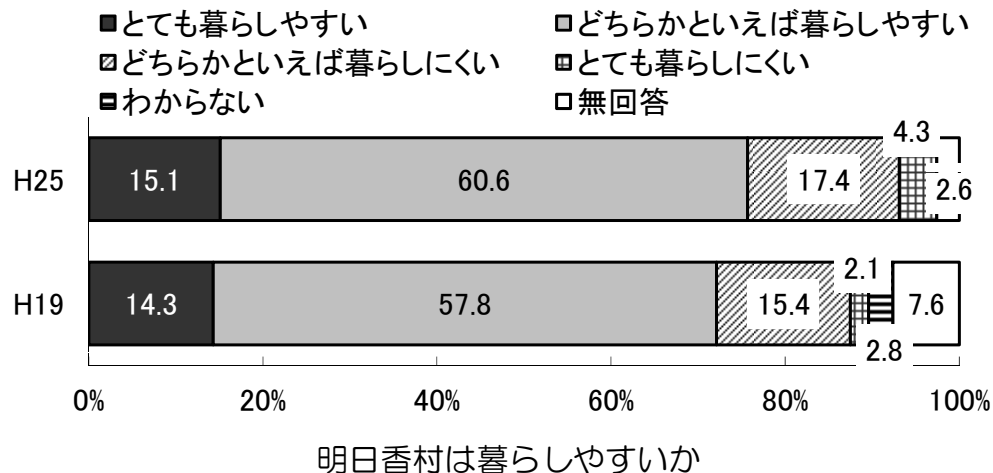


# 5. 村民の思い、意識（住み心地）

明日香村の住み心地については、7割以上の村民が暮らしやすいと評価しており、前向きに評価する人の割合も増えている。

## 住み心地に対する評価

- 平成25年度において、村民の住み心地に対する評価は、「どちらかといえば暮らしやすい」とした人の割合が60.6%と最も高かった。
- 「とても暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせると75.7%に達する。（全ての年代で60%以上。特に30～34歳代が86.9%、40～44歳代が84.7%、60～64歳代で83.2%）
- 「とても暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」とした人の割合は、どちらも平成19年度より増加。



## 5. 村民の思い、意識（各分野に対する生の声）

新規就農者や村外からの移住者を増やすことは地域の活性化につながるため、村民の村づくりに対する前向きな意見を汲み入れながら、担い手育成や景観保全、観光・農業等の振興に励むことが重要である。

### ■人口定住

- 若者の定住を増やそうとするには、もっと若い農業就労者が作業出来るような、美化を守った環境を考えていただきたい。(立部 男性)
- 空き家バンクで上大字に1軒若い人が入り、子どもが生まれ、地域はとても活性化して本当に良いのだが、賃料が高いと聞く。負担を軽くするなど少し住みやすい方法を検討いただきたい。(上 男性)



明日香座の様子

### ■担い手づくり

- 60数年住んでいて確かにいいところだと思う。景色が50~60年変わってない地域はそうはない。もっと村に住んでよかったと実感したい。村任せだけにするのではなくて、地域もやはり一緒に活動していかないといけない。(細川 男性)
- 40代以下は1家族だけで、村道の草刈りができなくなった。若い人が住んで維持しないと、いくらいいところでもどうしようもない。(入谷)

### ■景観

- 耕作放棄地や明日香にそぐわない建築物、飛鳥駅の南側にあるタンクやバラックといった産業廃棄物など、景観を乱しているものが様々ある。(緑台 男性)
- 石舞台の上の放棄地に雑草が生えて、手がつけられない状態。(上居 男性)
- 最近、昔の明日香村が失われつつあると言う声をよく聞く。住んでいる私たちが自然をできるだけきれいにし、静まっているようにするべきだと思う。(岡 男性)

### ■観光

- 奥飛鳥は、自然の宝庫で動植物も多い。万葉集に出てくる植物も自生しているため、万葉集に絡んだ観光の呼び込み、子どもたちが自然を学ぶ場など、住民が作って行くことができればいい。(稲渕 女性)

### ■農業

- 新規就農したい若者は非常に多い。しかし、技術も、住むところも、ノウハウもないなど問題点が多いため、新規就農者が熱意を持って新たに始められる、トータルの方策が必要。(小原 男性)
- 農業生産に対する意識が高いと感じている。集落内には生産に対する競争意識もあり、肥料、消毒や品種等の情報のやりとりもしている。(栗原大字総代、副総代)
- ボランティア等に来てもらって農地を整備することには抵抗感がある。遊休農地は集落で何とかしたい。(八釣大字総代)
- 積極的に地域の人とも関わっていききたい。地域にあるものを知って生かしていく地域づくりをしていきたい。(新規就農者)



## 6. 新たな住民や来訪者の受入れ（村外からの移住者）

村外から明日香村に移住し、集落のコミュニティに上手く適応することが簡単ではないことは、経験談からも伺うことができる。こうした需要に丁寧に応えることが重要であり、集落側には新たな住民を受け入れる体制や環境、雰囲気を作ることが求められる。

### ■移住して新規就農し、民宿を経営

- 明日香村に新規就農者第1号としてやってきた、大阪府出身の恵良崇さん・容子さん夫妻。
- 2004年に明日香村で農業を始め、今では民宿3軒「ゆるりや」「とまりゃんせ」「ぼつり」を経営し、移住者への支援も行う。
- 県や村の支援制度がない頃で、家や畑を貸してくれる人は簡単に見つからず、人づてに紹介を受け、やっとの思いで築120年の古民家(入谷集落)にたどり着いた。現在も自宅兼民宿として使われている。
- 野菜作りもまずは1反から挑戦。5年を費やして研究を重ね、今では村内各所に計1町1反の田畑を有する。



明日香村への移住者（冠の和農園）

### 《民宿ゆるりや(入谷集落)》

- 入谷集落にある築150年、瓦屋根の古民家。
- 夕食の田舎料理や飛鳥鍋でふんだんに使われる野菜は、オーナー経営の「冠の和農園」で育った無農薬野菜。
- 農園での農業体験ができ、レクチャーもしてもらえる。



農家民宿「ゆるりや」





## 6. 新たな住民や来訪者の受入れ（宿泊や食事目的の来訪者） 国土交通省

集落内で営まれている農家民宿は、古民家の雰囲気を活かされ、集落での暮らしの一端を味わうことができる。農家レストランでは村内で生産された食材を村民が手作りした料理が楽しめる。

### ■集落内の古民家を活かした農家民宿

- 真弓集落の小高い丘の上、400坪の敷地に建つ別荘のような貸切り宿。
- 築80年の古民家を改装。日本庭園はどの部屋から見渡せる。
- 雷丘のふもと、築80年超の農家を改築した貸切宿。
- 窓の外に広がる日本の原風景を眺めながら、ゆったりとした時間が流れる。



古都里庵（ことりあん）

あすか癒俚の里 森羅塾

### ■村民との触れ合いも楽しい農家レストラン

- 古代米や野菜料理などを中心に、村内の食材をふんだんに使った食事処。
- 明日香の間伐材を使ったテーブルセットで、落ち着いた雰囲気が漂う。
- 飛鳥川源流の隠れ里にある築50年の古民家。
- 「ふるさとの食」をコンセプトに、畑の野菜や山菜を豊富に使った郷土料理を提供する。



夢市茶屋（島庄）

奥明日香さらら（栢森）